



横浜冷凍株式会社 [東証 1 部 : 2874]

－ 「人」 「もの」 「地球」 に優しい食品流通のエキスパート－

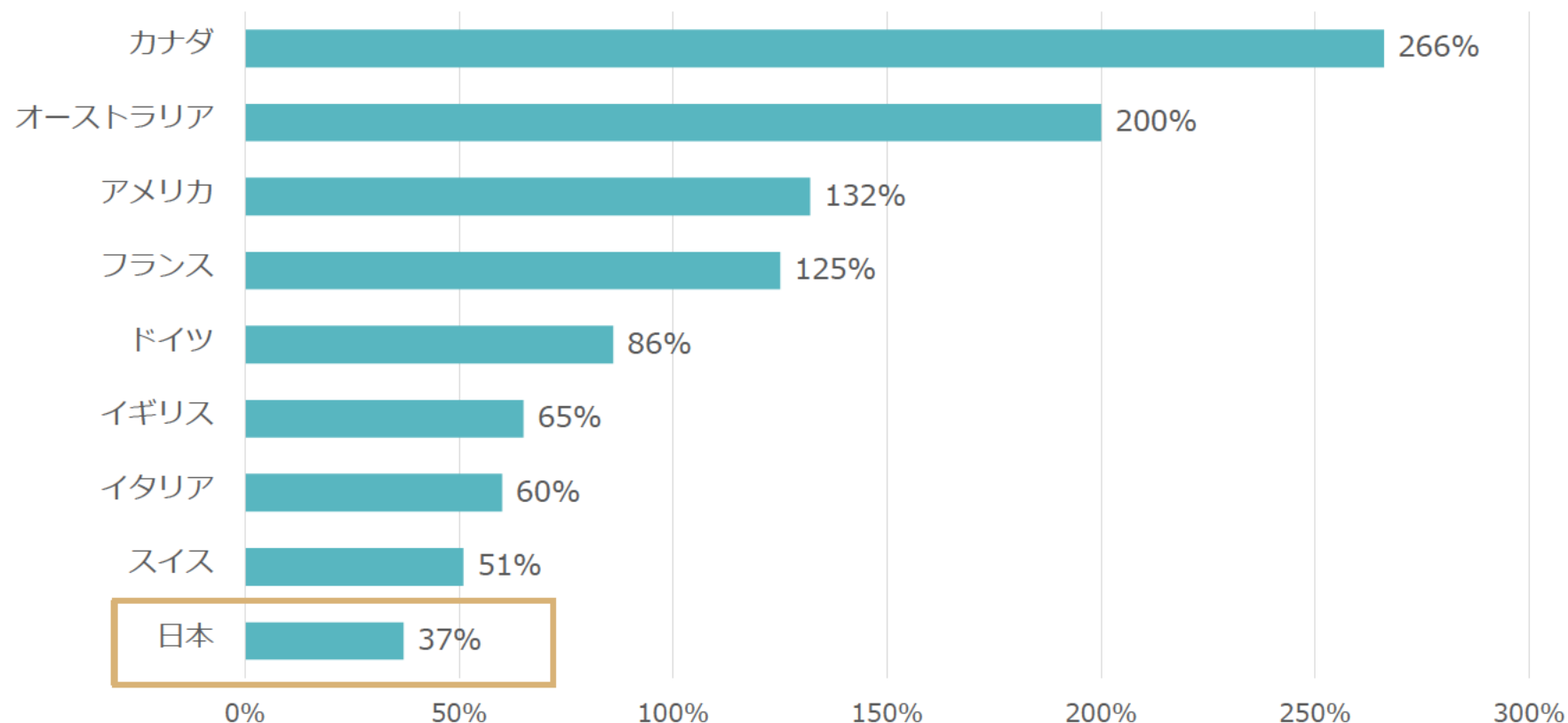
本日の目次

1. ヨコレイの使命
2. 冷蔵倉庫事業
3. 食品販売事業
4. 長期ビジョンおよび中期経営計画
5. 持続可能な社会へ –SDGsへの取り組み–
6. 株主還元方針
7. 本日のまとめ

日本人の食生活に必要な不可欠な冷蔵倉庫

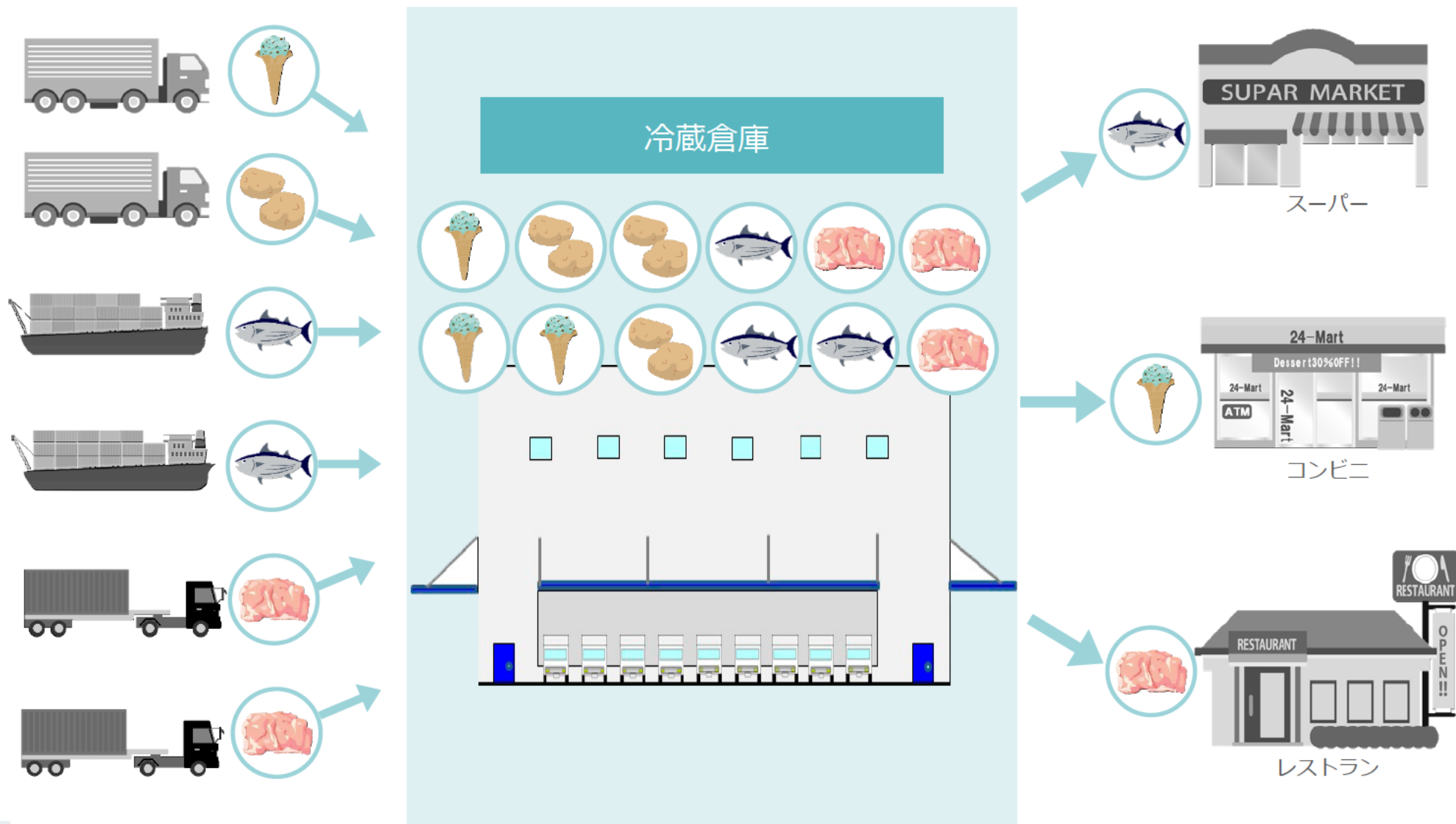
日本の食料は輸入に大きく依存

食料自給率（カロリーベース）



※農林水産省HP「諸外国・地域の食料自給率等」のグラフより (https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/zikyu_ritu/013.html)
※平成30年の数値（日本のみ令和2年度）

日本人の食生活に必要な不可欠な冷蔵倉庫



ヨコレイの使命

THE MISSION OF YOKOREI

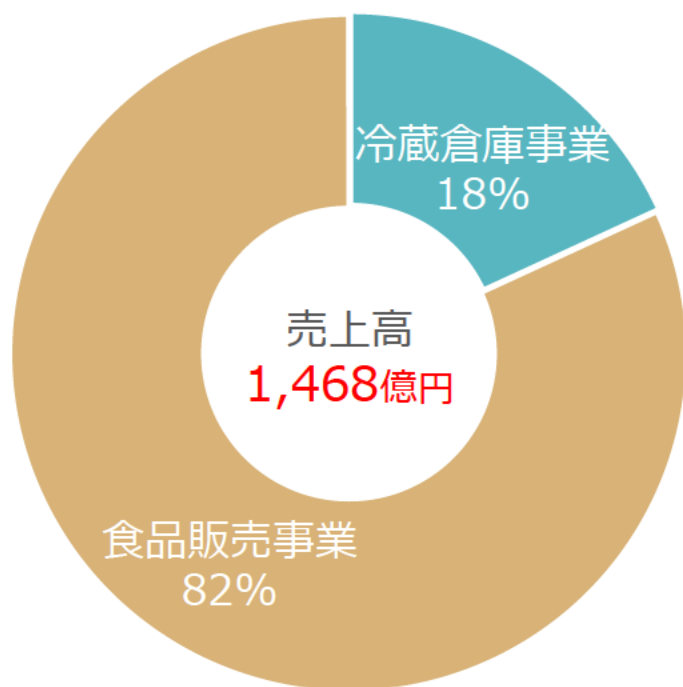
ネットワーク

収容能力合計 100万トン超 * 2021年9月末現在

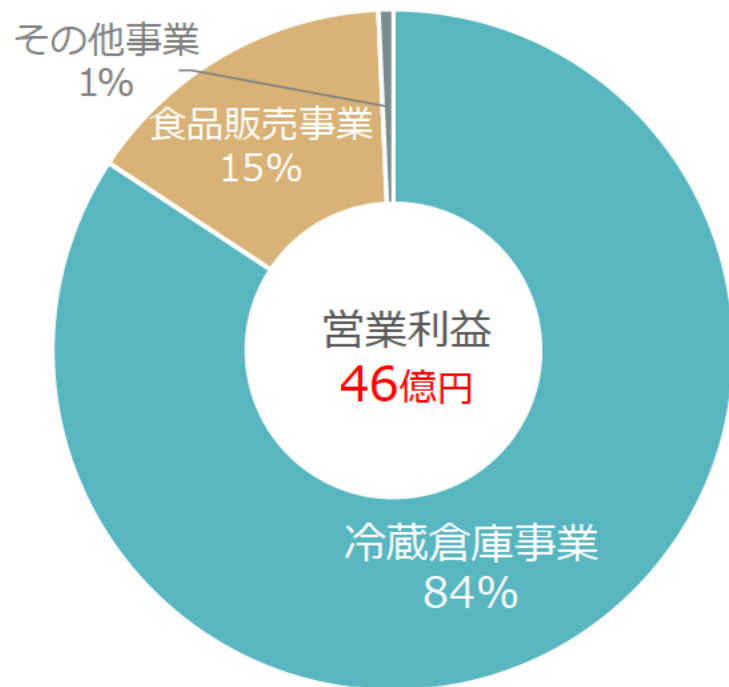


2つの事業 売上と収益を安定的に確保

－売上高・利益構成－



売上の柱
食品販売事業



利益の柱
冷蔵倉庫事業

※直近決算5期の売上高・営業利益より平均値を算出

冷蔵倉庫事業

REFRIGERATED WAREHOUSING BUSINESS



冷蔵倉庫事業の概要

収容能力

国内

約95万トン

 **ランキング 2位**

国内シェア

1位	ニチレイグループ	約9%
2位	ヨコレイ	約5%
3位	マルハグループ	約3%

タイ

約10万トン

 **ランキング 1位**



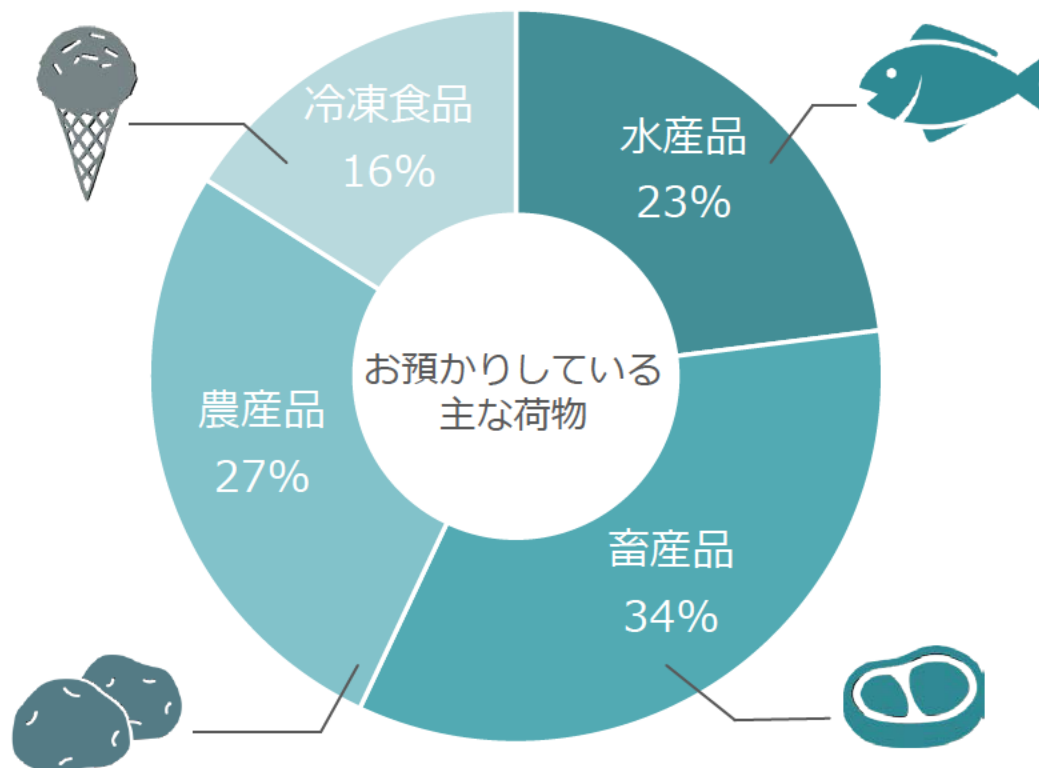
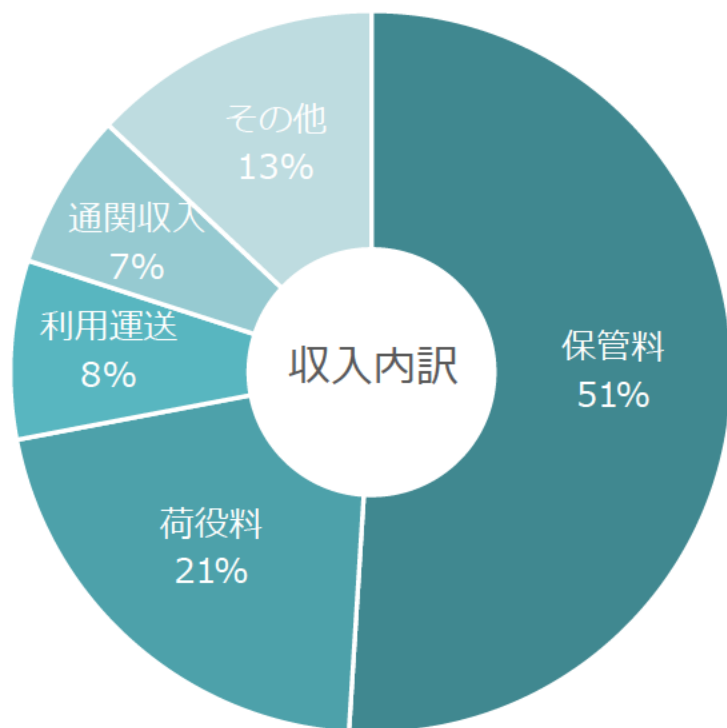
国内外合計 約105万トン

冷蔵倉庫事業の概要

冷蔵倉庫事業

多岐にわたる取引先と安定した収入で収益を確保

主な取引先：メーカー、商社、問屋など
取引先数：3,000社以上

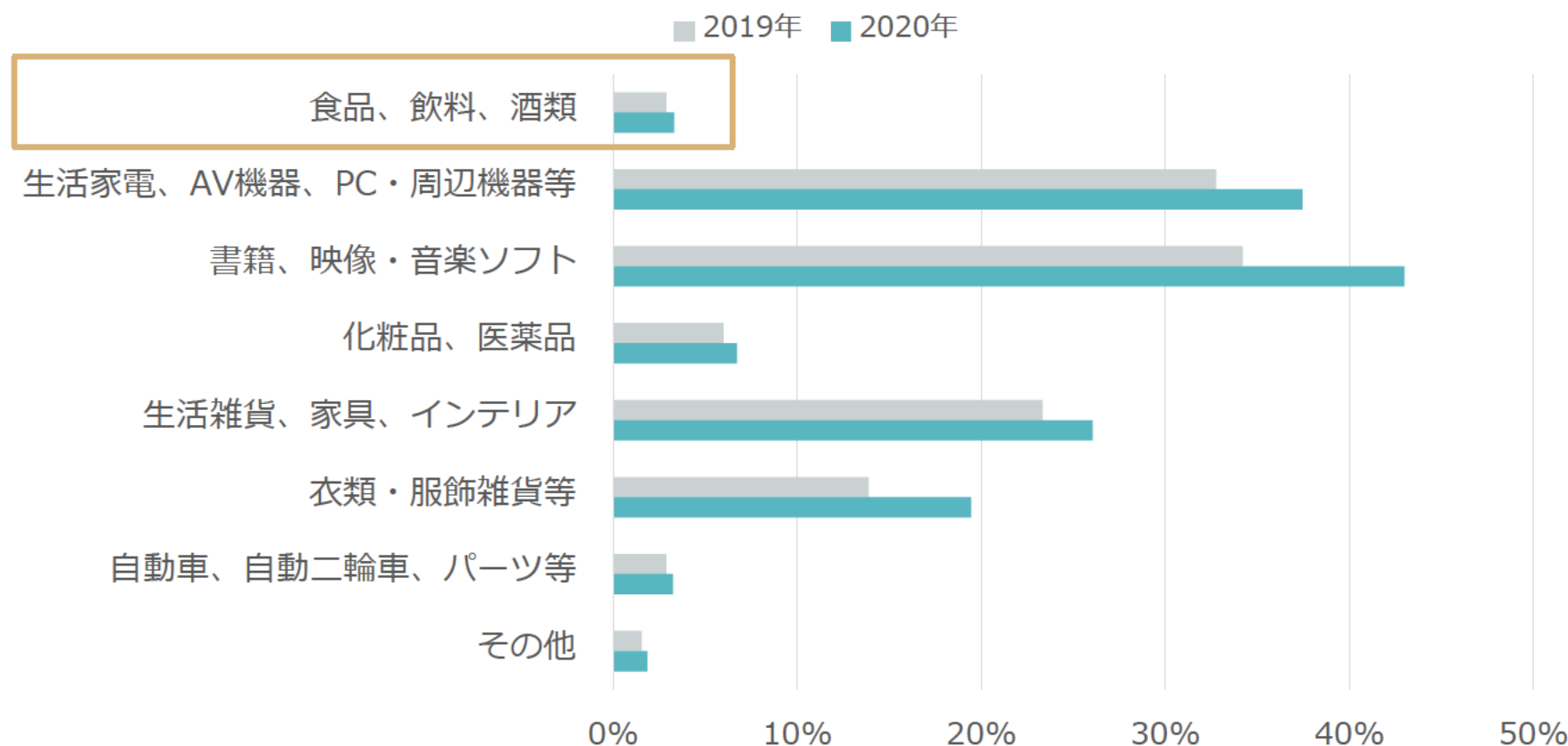


※2020年9月期決算数値より

高まるニーズ

①食品のEコマースは今後大きく成長

商品別Eコマース化率

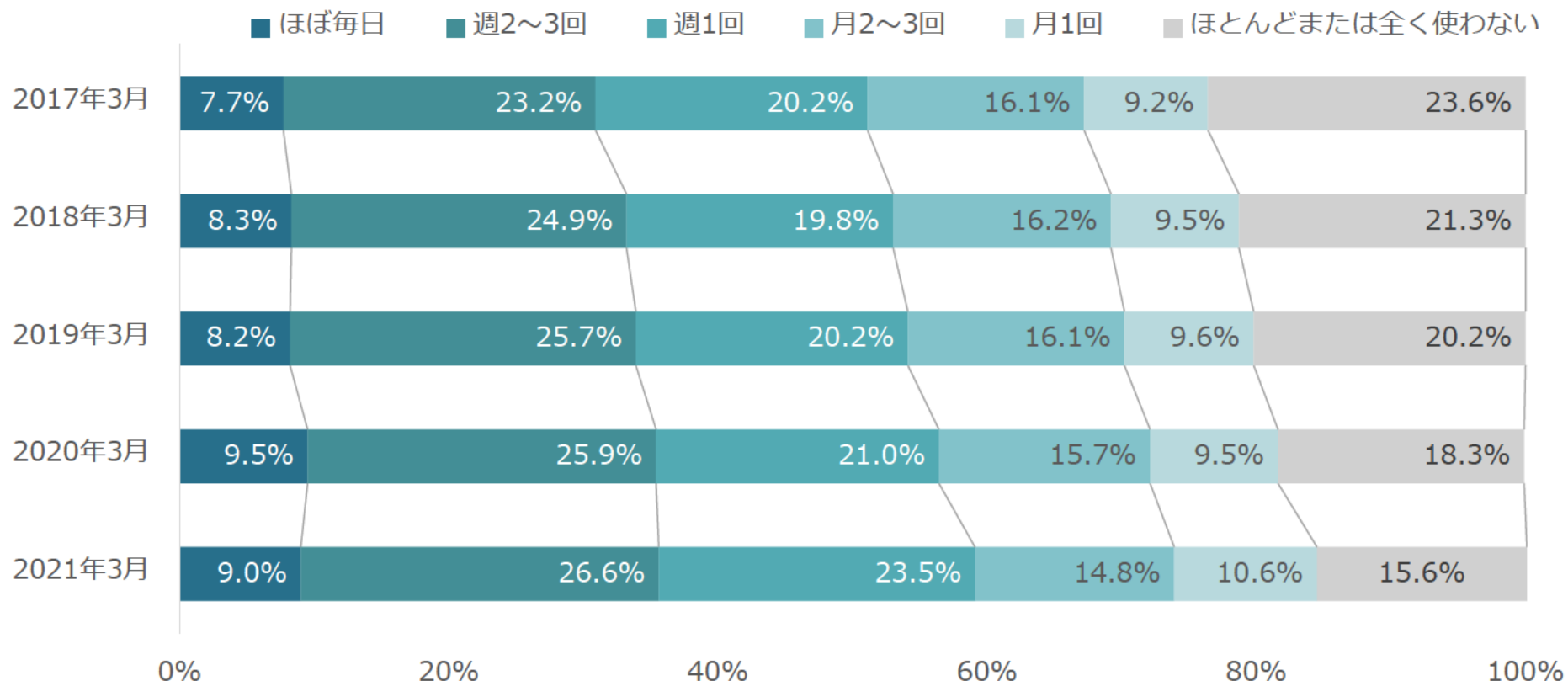


※経済産業省「令和2年度産業経済研究委託事業報告書」P.52図表4-17を基にグラフを作成

高まるニーズ

②年々増加する冷凍食品ニーズ

冷凍食品の利用頻度

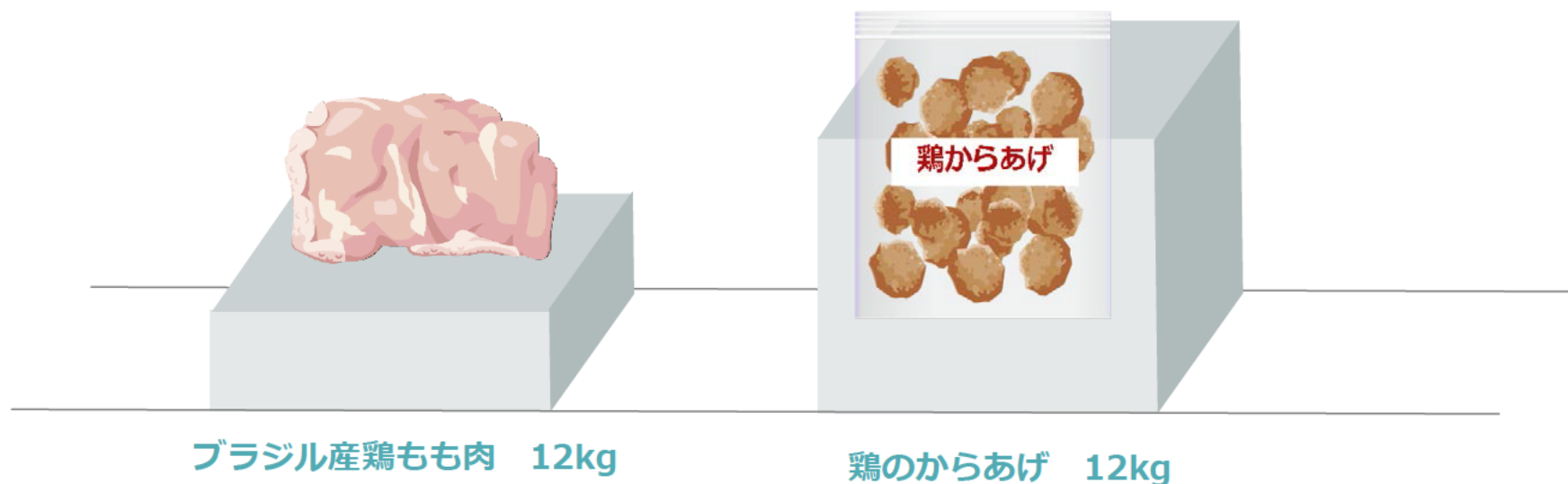


※日本冷凍食品協会「冷凍食品の利用状況実態調査」P.14図3を基にグラフを作成。
調査対象は男性のみ

高まるニーズ

③冷凍食品の多様化&取扱い増加の一方で

原料貨物と冷凍食品の違い



軽くてかさばる
冷凍食品

重量は同じでも保管には2倍以上のスペースが必要

冷蔵倉庫業界の課題

－ 2つの大きな課題－



施設の老朽化



築30年超の
冷蔵倉庫

日本国内の30%
東京地区では42%

※2018年7月現在

- 多額の建設コスト
- 慢性的な用地不足



フロンガス製造終了



オゾン層破壊と
地球温暖化の原因

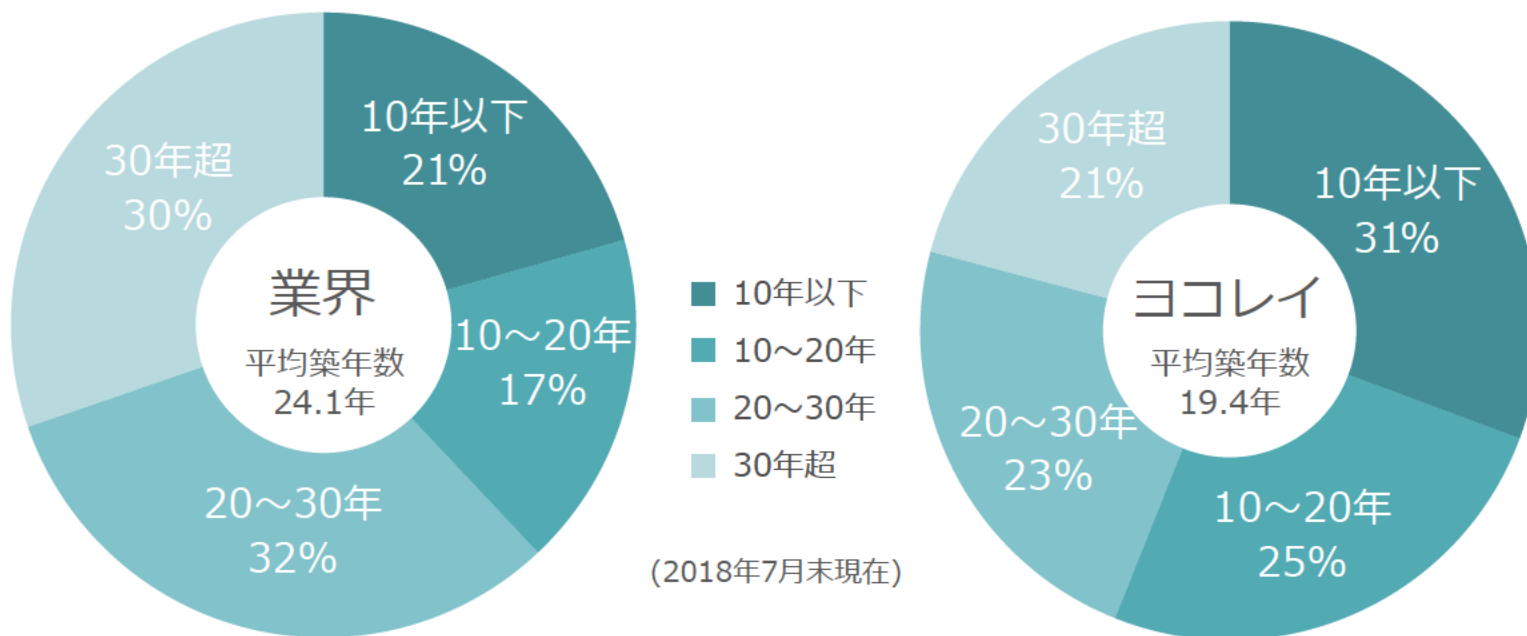
- 2020年に従来型フロンガスの製造終了
- 冷媒切替コストは1棟あたり数億円

ヨコレイの強み

①「もの」に優しいー(1)

計画的なスクラップ&ビルドにより冷蔵品質を維持

設備の築年数分布



約30%

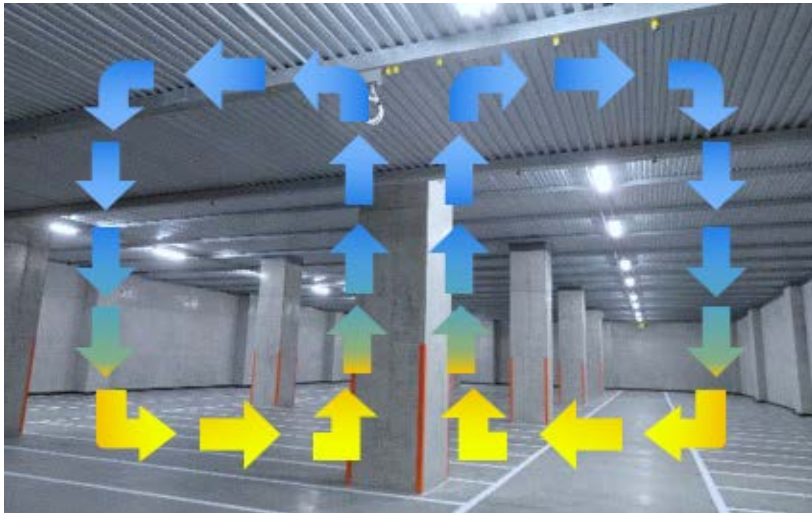
自然冷媒導入率

約60%

ヨコレイの強み

①「もの」に優しいー(2)

自然対流の冷却方式



- 長期間、高品質な保管が可能
(乾燥・冷凍やけ・色あせが起こりにくい)
- メンテナンスしやすい

社員オペレーション

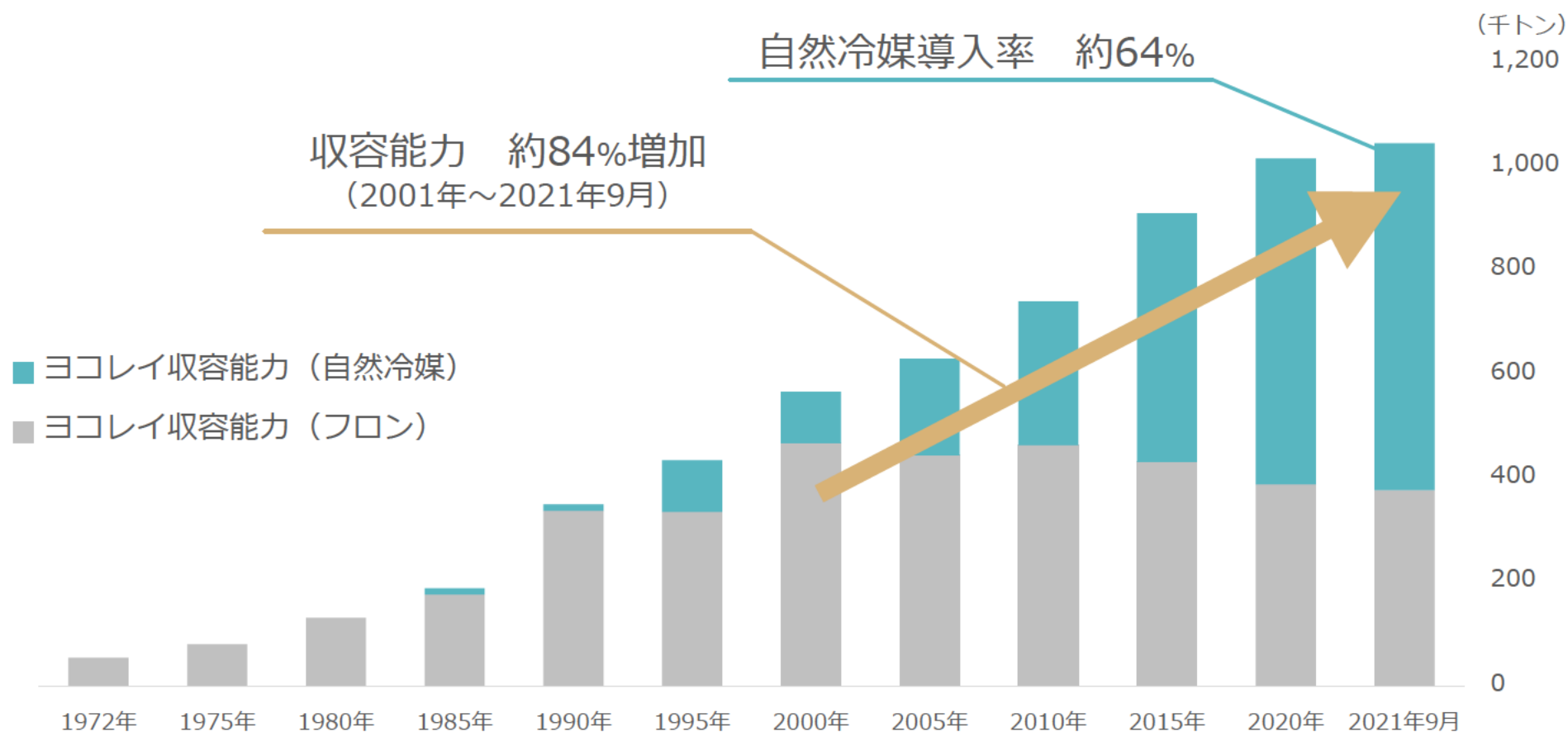


- 蓄積された商品知識とノウハウ
- 高い技術力
- 効率的なオペレーションで利益を生み出す

ヨコレイの強み

②「地球」に優しいー(1)

冷蔵収容能力の推移と自然冷媒の割合



ヨコレイの強み

②「地球」に優しいー(2)

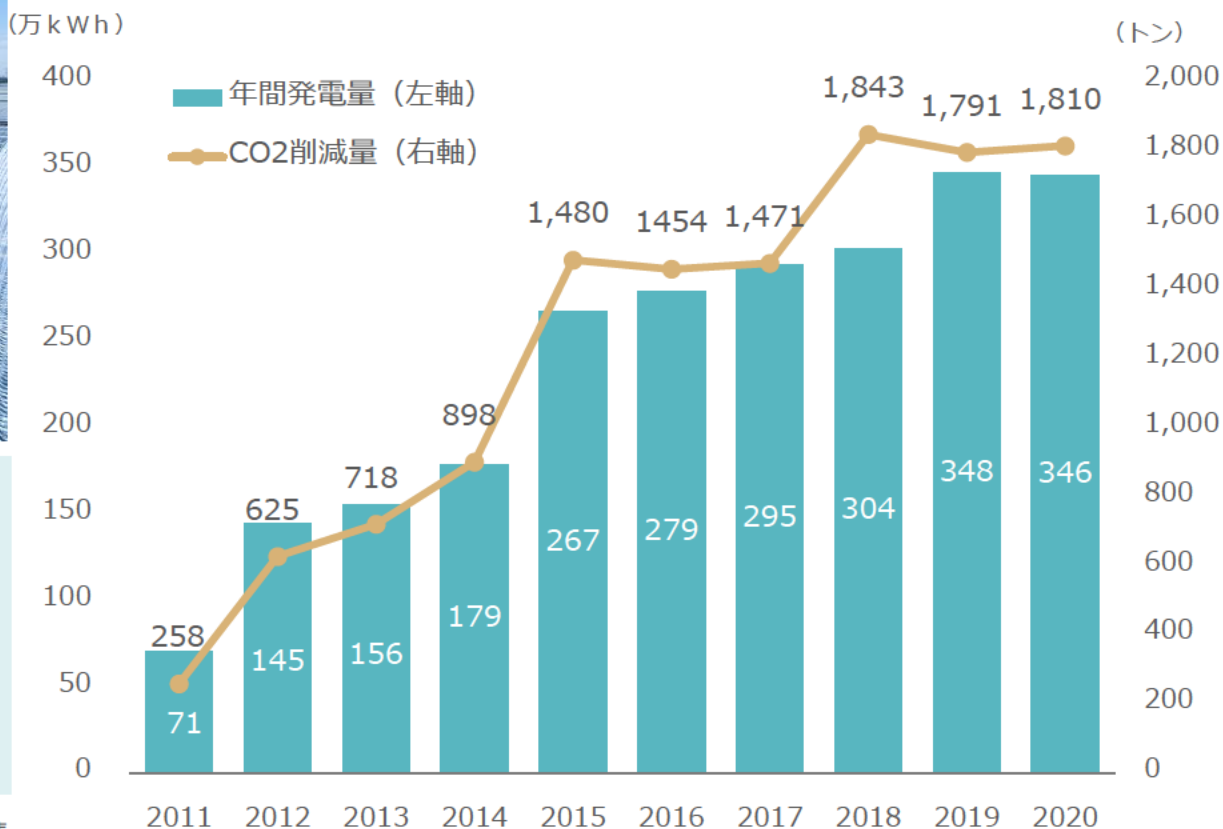
環境への取り組み



- 2006年に伊勢原物流センターで初めて導入
- 国内17ヶ所、海外2ヶ所で導入済み
- 年間発電量 346万kWh
(1,063世帯分の年間使用量に相当)

* 年間発電量・・・2019年10月～2020年9月実績

ーヨコレイグループの太陽光による発電およびCO2削減量ー



ヨコレイの強み

③「ひと」に優しいー(1)

省力化・省人化対策



作業用ロボット

- 荷積み作業を自動化



カーゴナビゲーションシステム

- 入出庫作業を大幅に効率化
- 誰でも「短時間に」「迷わず」「正確な作業が行える」



トラック予約受付システム

- トラックの長時間待機問題の解決に向けた取り組み
- ホワイト物流推進の自主行動宣言

ヨコレイの強み

③「ひと」に優しいー(2)

人材育成施設の建設



- 社員の教育・研修を行う施設
- システム開発センターとしての設備も備え大規模なソフトウェア開発が可能



- 社員の現地研修を行う施設
- フォークリフトや設備の操作の研修が可能
- 横浜物流センターのサテライトセンターとしても稼働

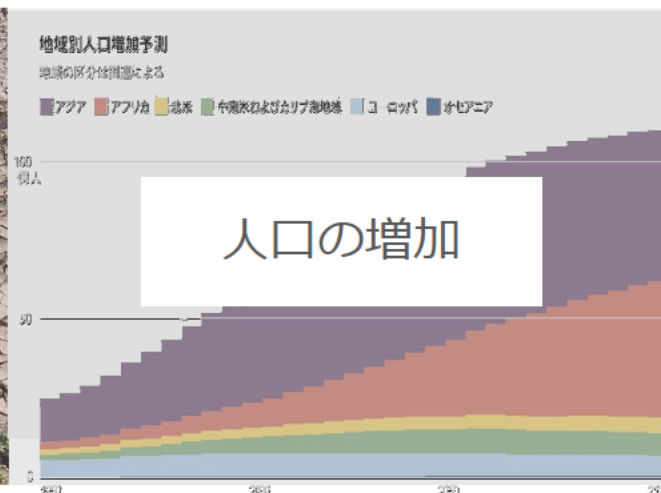


食品販売事業

FOOD SALES BUSINESS

世界規模で発生している食糧争奪戦

－食糧資源をいかに確保するか－



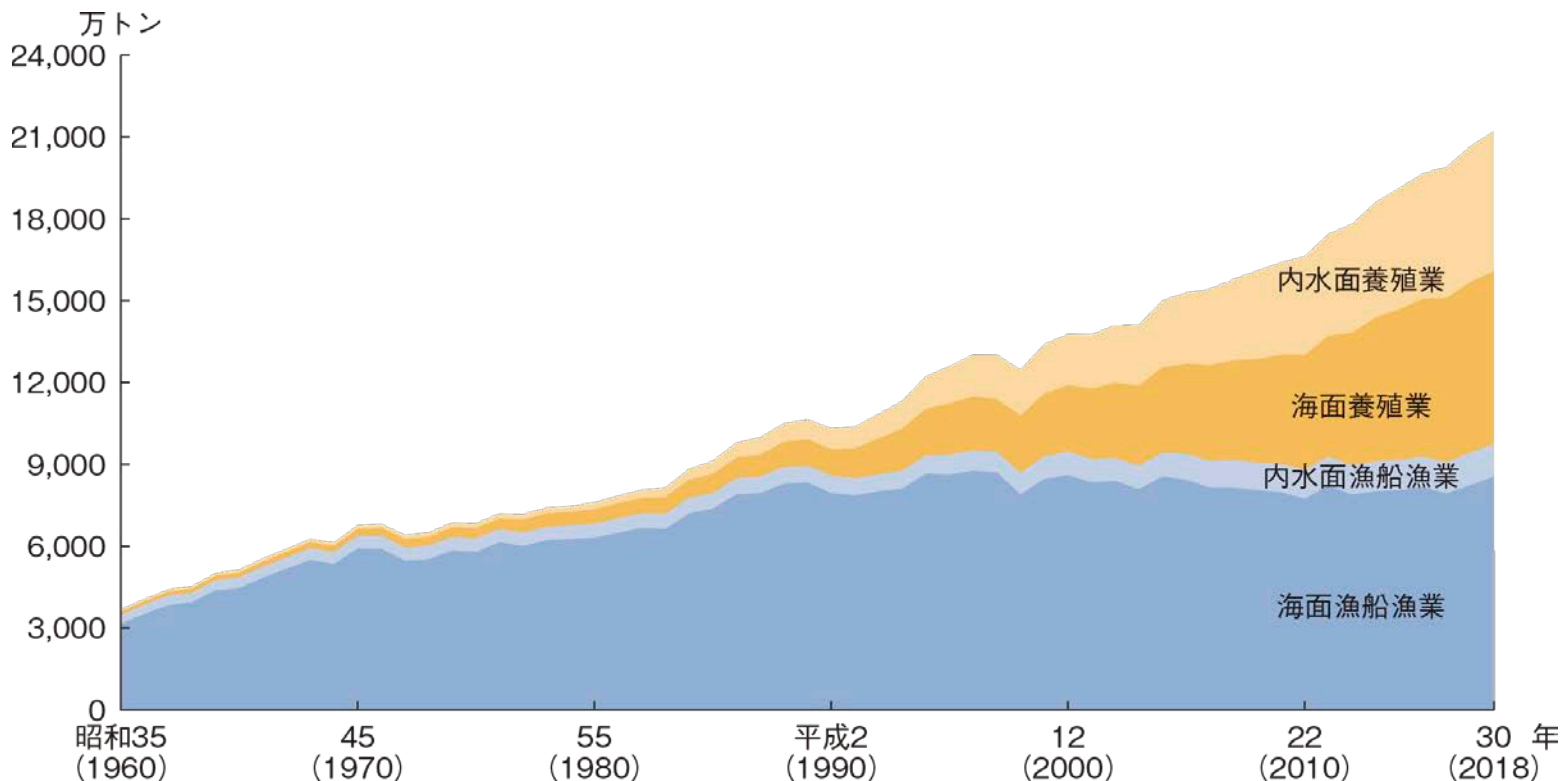
安定した食糧調達先の確保が今後の成長（生き残り）へのカギとなる

世界の水産物供給

－ 養殖による生産量が大幅に増加中 －

- 水産物の消費量増加
- 途上国の経済発展
- 「持続可能」への意識の高まり

世界の漁業・養殖業による生産量の推移

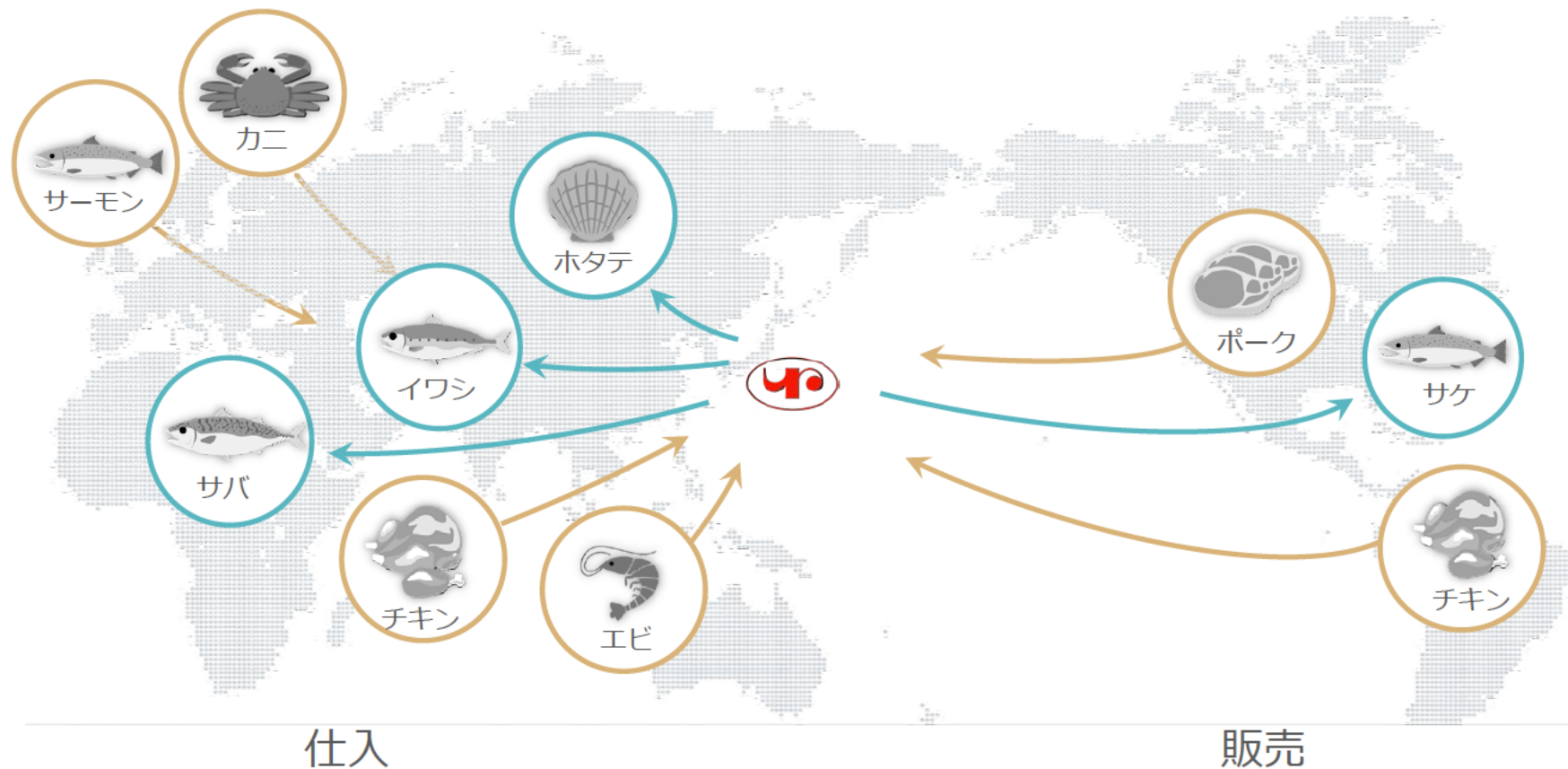


資料：水産庁「令和元年度水産白書」

<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/R1/attach/pdf/index-8.pdf> (2020-09-10)

食品販売事業の概要

ー世界から・世界へー



【東南アジア】 エビ・チキン
【北 欧】 サーモン・カニ
【北 南 米】 ポーク・チキン

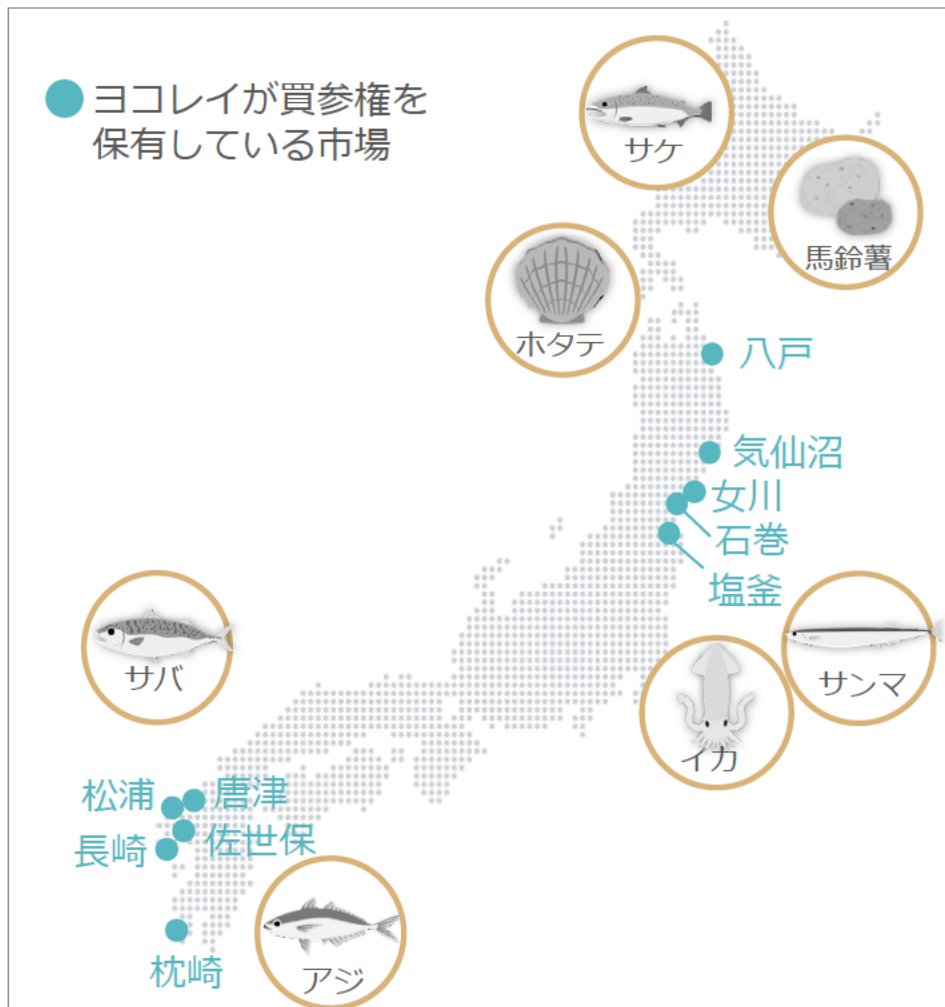
海外取引

【北 米】 サケ
【東・東南アジア】 サバ・ホタテ・イワシ
【EU・アフリカ諸国】 サケ・サバ

ヨコレイの強み

－国内の産地と買参権－

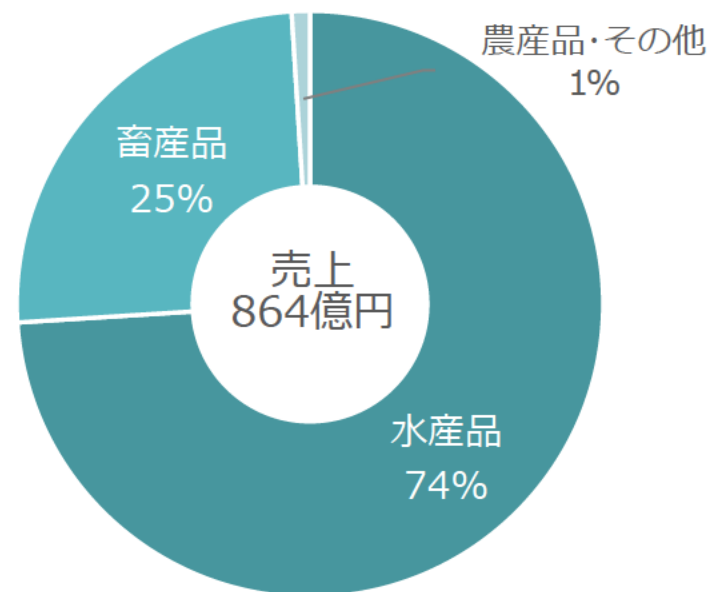
● ヨコレイが買参権を
保有している市場



販売先

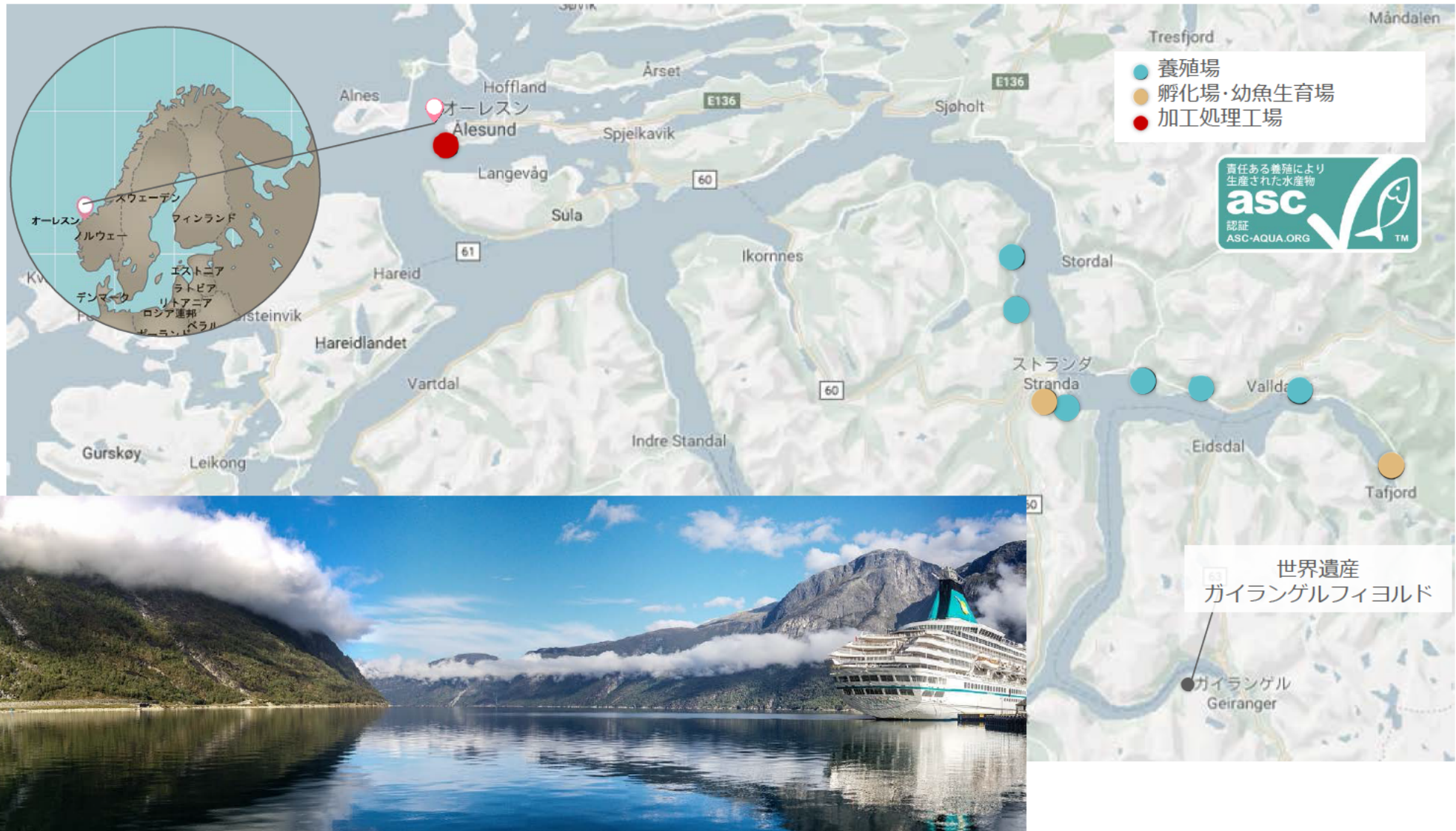
商社・仲卸業者・食品メーカー・外食産業・流通チェーン
など

売上高



※2020年9月期決算数値より

海外養殖事業について



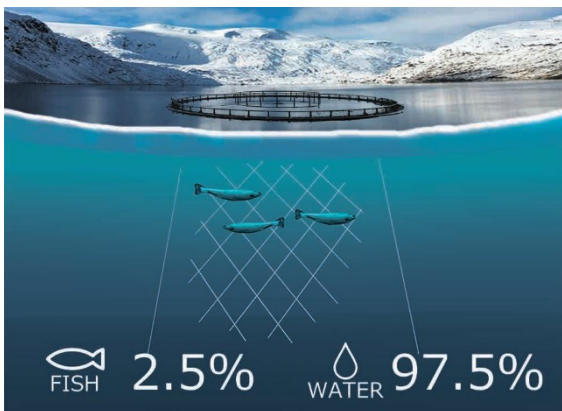
海外養殖事業について

－なぜノルウェーなのか？－

新規参入の難しさ

養殖ライセンス制度

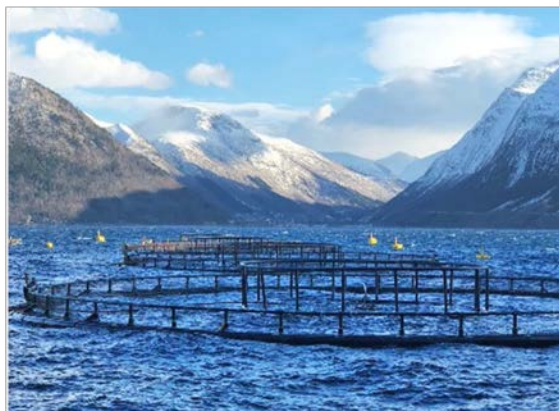
- 新規ライセンス発行は極めて限定的
- ノルウェー沿岸部(フィヨルド)で約1000ライセンス
- 上位10社で6割を保有



養殖に適した環境

良好な水質

- 最大水深600m
- フィヨルドには真水が流れ込み、常に新鮮できれいな水質が保たれている
- 水温が年間を通して6～14℃以下のため赤潮・青潮が発生しにくい



先端技術を駆使した養殖

ITによる自動化・高度管理

- 給餌の自動化
- 生簀内は常にモニターでチェックされ魚の健康状態等を効率的に管理することが可能
- 寄生虫発生状況を常時監視



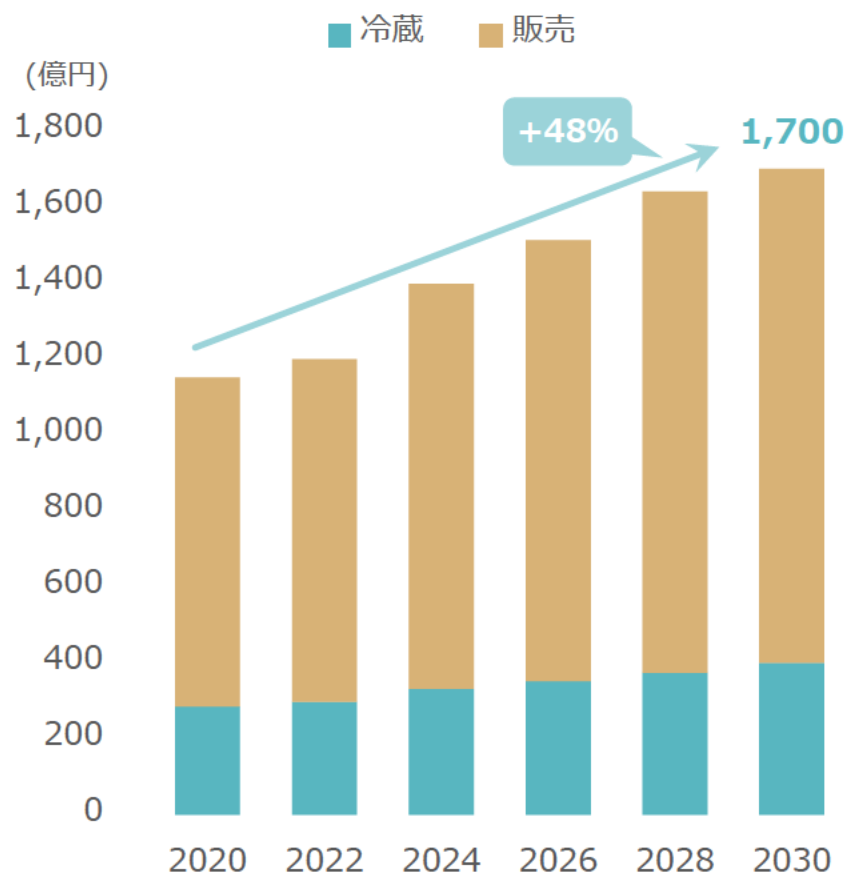
長期ビジョンおよび中期経営計画

THE LONG-TERM VISION AND THE MEDIUM-TERM MANAGEMENT PLAN

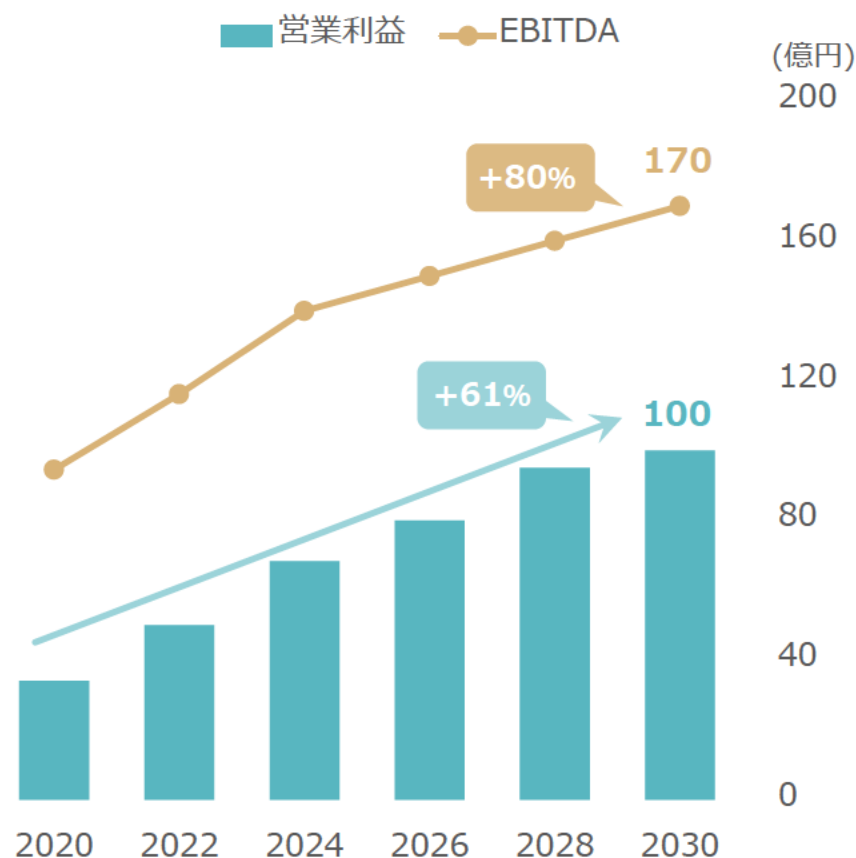
ヨコレイ 事業ビジョン 2030

－ 定量目標 －

売上高



営業利益・EBITDA



新・中期経営計画の全体像

－全体方針及び事業別方針－

新・中期経営計画 全体方針

創る力

2023年度目標

- 売上高 1,310億円
- 営業利益 60億円
- EBITDA 120億円

冷蔵倉庫事業

食品販売事業

事業別 方針・目標

経営環境の変化を先取りした事業モデルを創造、お客様へ新たな価値を提供する

- 売上高目標 310億円
- セグメント利益*目標 70億円

過去からの脱却、強みと絆を活かし、時代のニーズに適応した食の価値を創出する

- 売上高目標 1,000億円
- セグメント利益*目標 20億円

経営基盤

グローバル化を支える人材を創り、企業価値向上に資する改革を絶え間なく推進

*セグメント利益:配賦不能営業費用(管理部門にかかる費用)の控除前

冷蔵ネットワークへの成長投資

－設備投資計画－

継続的な投資によりヨコレイ品質をさらに向上
業界屈指の設備・システムで低温物流業界をリード

3カ年中計期間
合計

300億円 (3カ年累計)

福岡ISLAND CITY
物流センター

80億円 (福岡県)

気仙沼ソーティング
スポットⅡ

60億円 (宮城県)

平戸アイスファクトリー

7億円 (長崎県)

新設物流センター

70億円

新設物流センター

70億円

その他高度化投資など

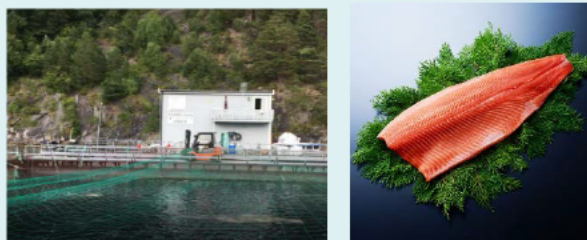
15億円

*新設予定施設名は全て仮称

事業品の販売拡大

ノルウェーサーモン養殖

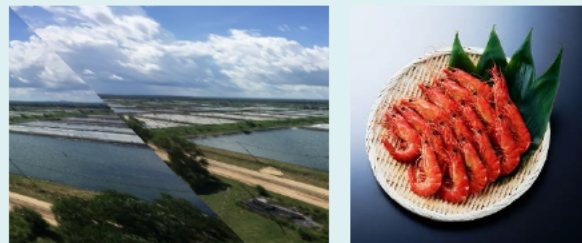
[HOFSETH]



年間生産量10,000t→12,000tへ増産

マレーシアでのエビ養殖

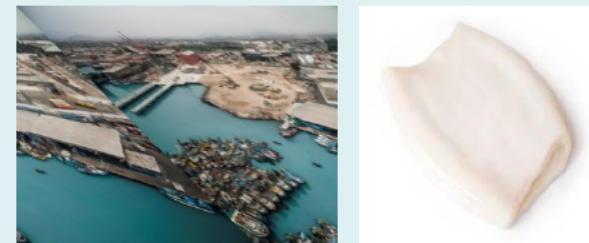
[Agrobest]



年間生産量2,500t→3,500tへ増産
ASEAN市場への販売にも進出

ペルーの水産品

[OCEANO]



イカ・シイラ・ウニ・トビコ・タコ等の
取り扱い商品拡充

凍結加工品



水揚げ後に凍結した魚を国内・海外食品
加工メーカーへ販売

凍結加工品



国内での養殖事業をスタート

独自商品・販売チャネル開発

- 地域特性を生かした商品
- B2Cビジネスの深耕加速

食資源の調達力により
確立された安定供給構造を活かし
国内外での販売事業を拡大

持続可能な社会へ

－ SDGsへの取り組み －

経営理念「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」

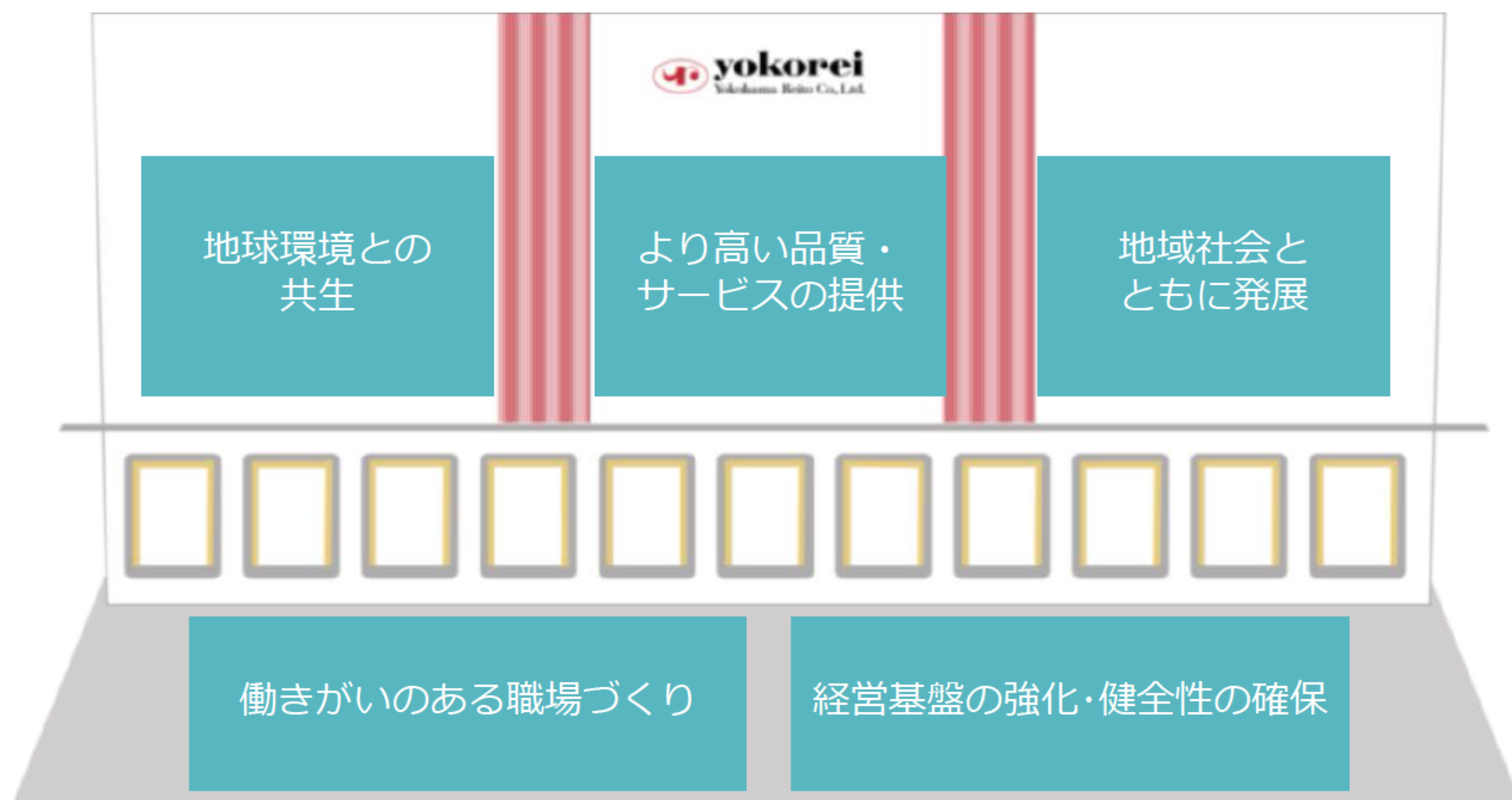
FOR THE SUSTAINABLE SOCIETY
- SDGS ACTIVITY -

ヨコレイ サステナビリティビジョン 2030

サステナビリティ
ビジョン

明るい食の未来へ

～ヨコレイは食の安定供給により、持続可能な社会に貢献します～



SDGsへの取り組み

環境への取り組み

環境へ配慮した冷蔵倉庫の建設



太陽光発電システム

- 国内17カ所、タイ2カ所の冷蔵倉庫に設置。
- ヨコレイグループ全体の発電量は6.5MW。



自然冷媒冷凍機の導入

- 自然冷媒(アンモニア・CO2)の導入推進。
- 自然冷媒導入率は約64%。(業界平均は30%台)



全事業所でグリーン経営認証を取得

省人化 & 自動化

省人化・自動化システムの導入



- カーゴナビゲーションシステム
- 電動式移動ラック
- トラック予約受付システム

ダイバーシティ

ダイバーシティへの取り組み



- 女性の活躍・キャリア継続を支援
- 働きやすい職場づくりの推進

SDGsへの取り組み

ASC・CoC 認証

持続可能な水産物づくり



- ホフセスアクア社(ノルウェー)保有の全養殖場でASC認証を取得。
- CoC認証も取得し、環境と社会に配慮した持続可能な水産物の生産を推進。

スポンサー 活動

スポンサー活動による地域貢献



- 地域スポーツクラブの支援
- 日本将棋連盟「研修会」運営の支援
- えのすいecoサポーターとして新江ノ島水族館のエコ活動に協賛

社会貢献 活動

寄付・協賛金による支援



フードバンク横浜

- 寄付された食材の保管場所を提供。
- 冷凍食材の保管が可能となり、常温品以外も取り扱いが可能に。



横浜市社会福祉協議会への 支援

- 40年以上にわたって支援を継続。
- 2021年3月、地域福祉・保健医療の推進に貢献したとして横浜市長より表彰。

株主還元について

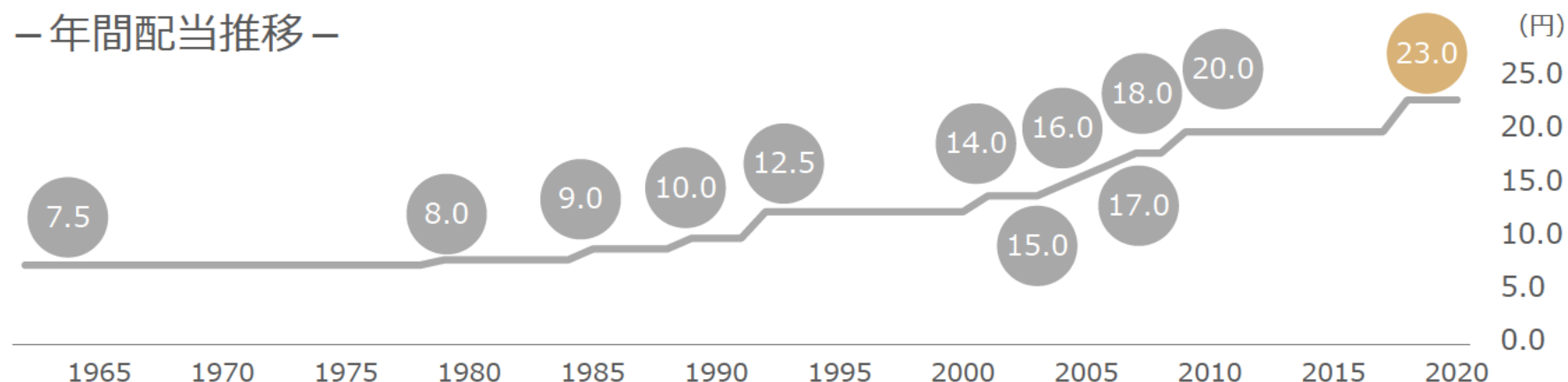
SHAREHOLDER RETURN POLICY

株主還元について

基本方針

着実な成長と長期安定配当

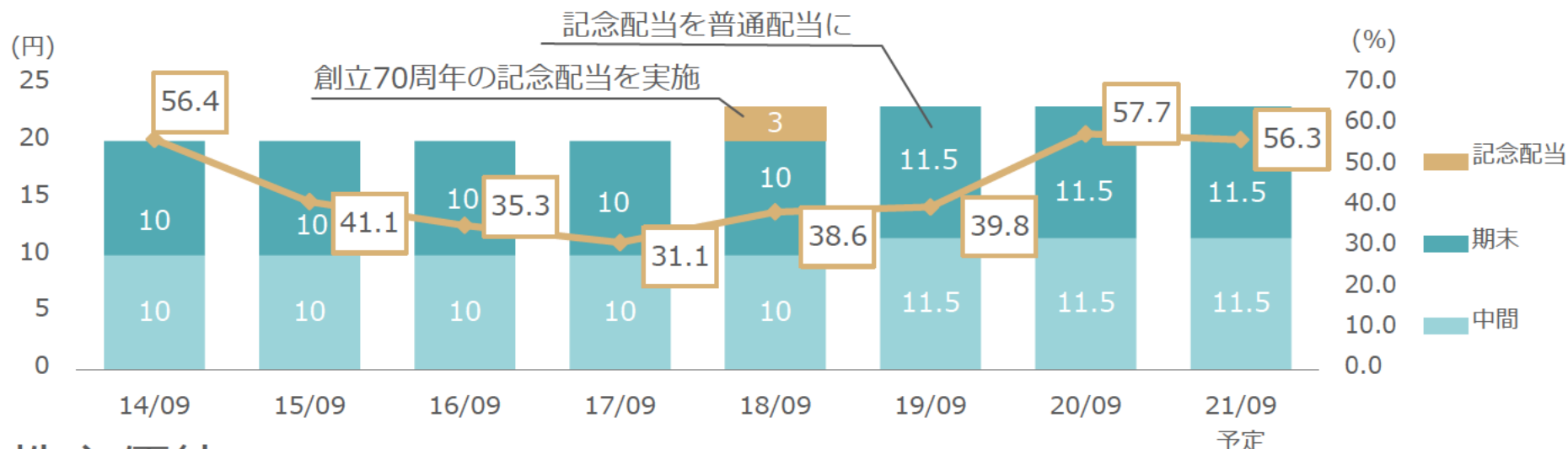
－年間配当推移－



1962年の東証二部上場以来、半世紀以上増配を継続

株主還元について

－ 1株当たり配当金と配当性向の推移 －



－ 株主優待 － (基準日：2021年9月30日)

1,000株以上～3,000株未満
保有の株主様

【ノルウェー産サーモントラウト製品詰合せ】

- －サーモントラウト切身（骨抜き）食べ比べ
無塩・定塩・粕漬け・西京味噌漬け
(3切240g×各1パック)
- －スモークサーモン (60g×3パック)



3,000株以上
保有の株主様

【北海道産ホタテ・イクラセット】

- －特選イクラ醤油漬け（鮭卵500g）
- －生食用ホタテ貝柱
(Lもしくは2Lサイズ1,000g)



100株以上
保有の株主様

【株主様向けECサイトでの購入権】

- －左記優待品2種を株主様向け
ECサイトにてご購入可能

株主優待の詳細については
こちらから



本日のまとめ

SUMMARY

本日のまとめ

安定した冷蔵倉庫事業と調達力に優れた食品販売事業で持続的に成長
長期安定配当と充実の株主優待で株主様へ還元



経営理念「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」

資料

SOURCE BOOK

ヨコレイの概要



会社名	横浜冷凍株式会社
本社所在地	横浜市西区みなとみらい4-6-2 みなとみらいグランドセントラルタワー7F
設立	1948年5月13日
代表者	代表取締役会長 吉川俊雄 代表取締役社長 松原弘幸
資本金	14,303百万円
事業拠点	冷蔵倉庫事業 国内48 海外5 食品販売事業 国内28 海外3
従業員数	連結 1,722名 単体 1,283名
上場証券取引所	東証一部（証券コード 2874）

* 2020年9月30日現在

ヨコレイの沿革

－ヨコレイのあゆみと成長－



創業者 吉橋伊佐男（左）

1948年
横浜冷凍企業(株)設立

1949年
第一号倉庫 横浜工場が完成

1953年
横浜冷凍(株)に社名変更

1962年 東証二部に上場

売上高(億円)

2018年 創立70周年

2016年 鮭鱒養殖業フィヨルドラックス・アクア社
(現ホフセス・アクア社 ノルウェー) を買収

2015年 水産加工業ホフセス社（ノルウェー）と包括業務提携

2009年 (株)アライアンスシーフーズ設立

2008年 (株)クローバートレーディング子会社化

2020年 (株)アライアンスシーフーズと
(株)クローバートレーディングを吸収合併

2006年
業界初の太陽光発電
システム導入

1991年 東証一部に指定替え

1989年 タイヨコレイ設立

売上高
(億円)

1,800

1,500

1,200

900

600

300

0

1960年

1970年

1980年

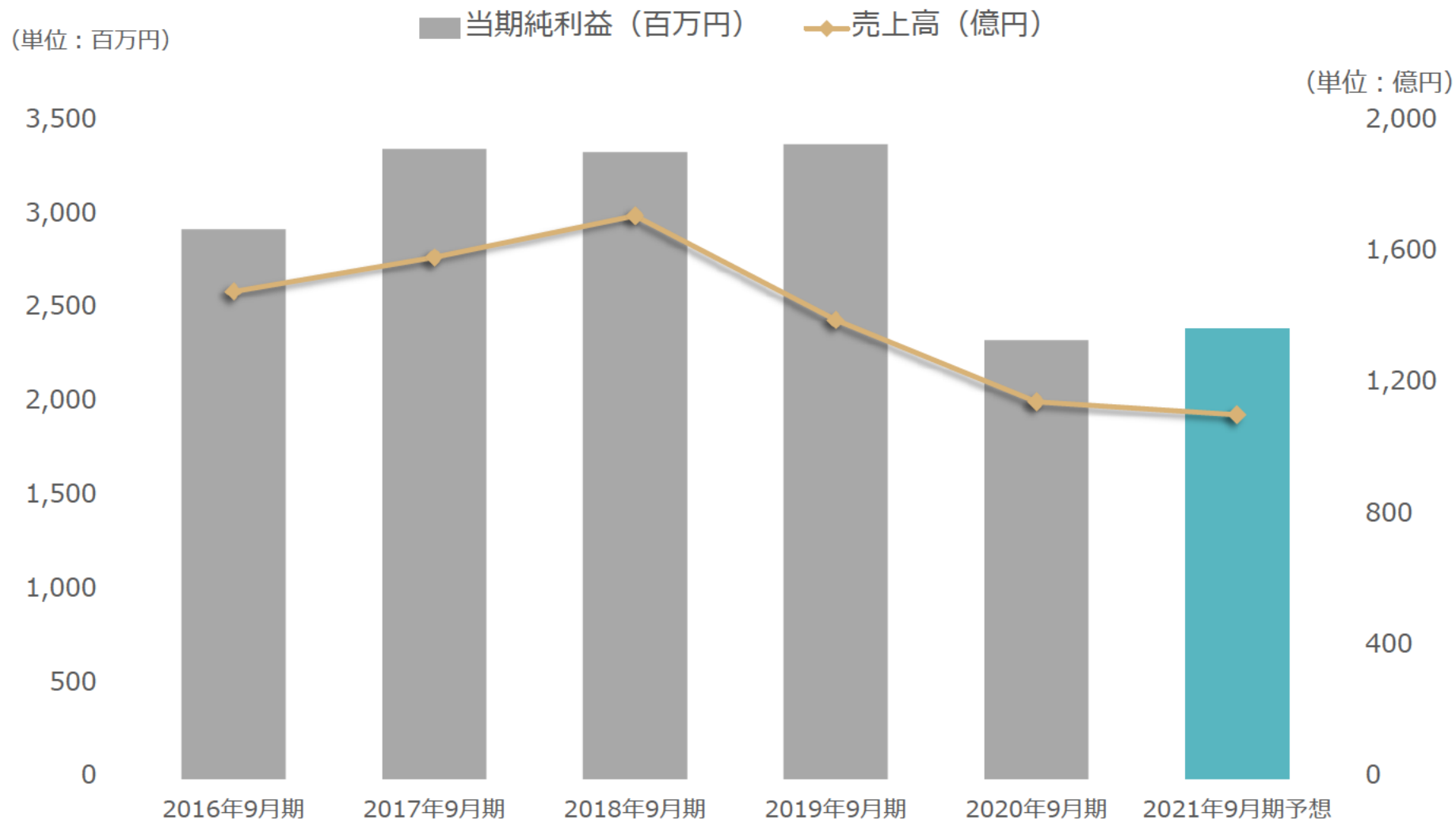
1990年

2000年

2010年

2020年

売上高・利益の推移



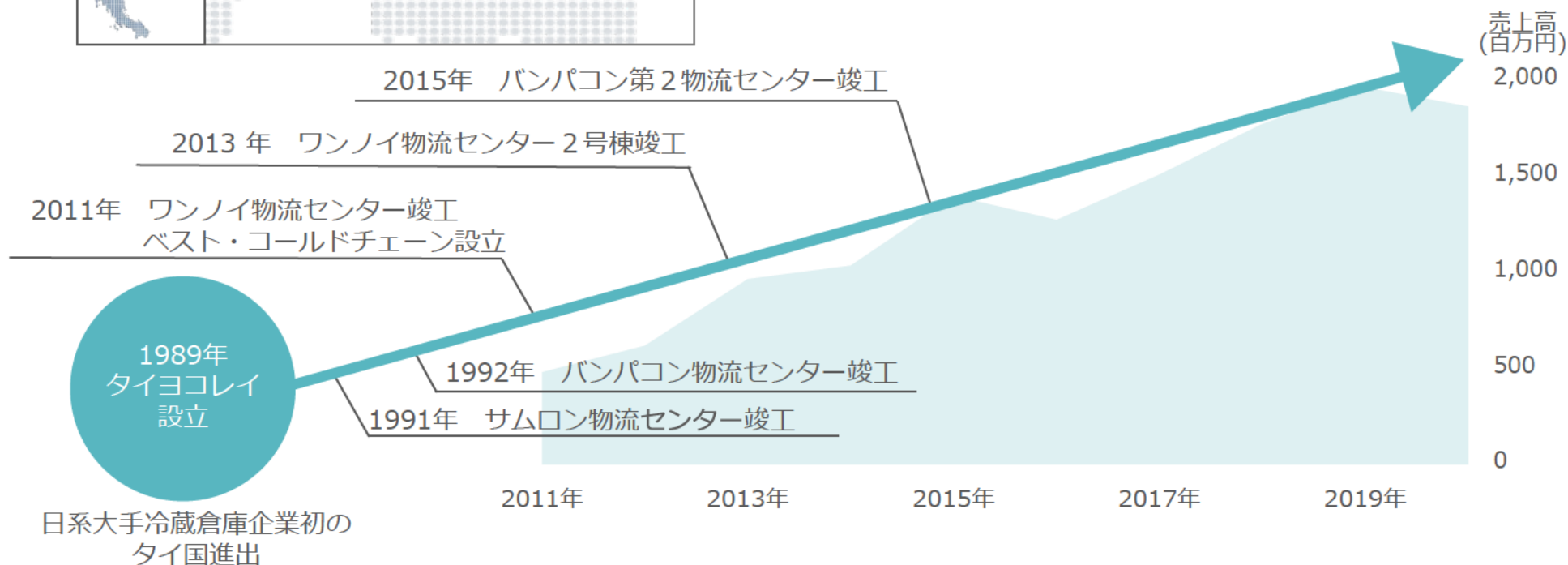
タイヨコレイの概要

－タイで躍進する国際低温物流ビジネス－



同国内の総収容能力 約10万トン

 **タイ国内 No. 1**



2021年9月期 通期業績予想

(単位:百万円)		2021/09期 第2四半期 実績	2021/09期 通期予想	進 捗 率	概 況
冷蔵倉庫事業	売 上 高	13,944	28,900	48.3%	在庫量が落ち着き、通常ペースで堅実に収益を上げられる見込み。 IT・ロボティクス投資を進め、更なる省人化・省力化によって収益性の向上を目指す。
	営 業 利 益	3,198	6,350	50.4%	
食品販売事業	売 上 高	39,705	82,050	48.4%	養殖事業は下期も厳しい収益環境となる予想。 国内販売は構造改革により収益性が大幅に回復。セグメント全体での目標達成を目指す。
	営 業 利 益	143	930	15.4%	

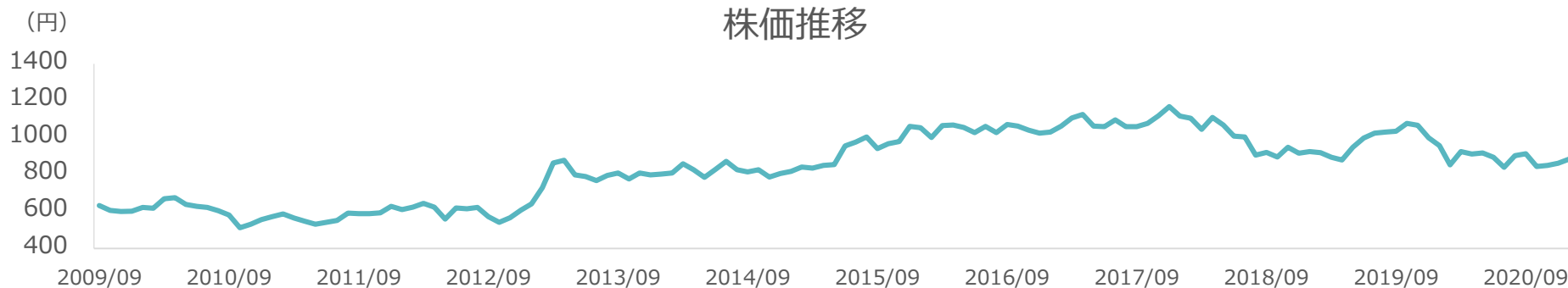
株式情報

証券コード	2874
上場金融商品取引所	東京証券取引所第一部
発行済株式総数	59,266,684株
時価総額	54,110百万円
1単元の株式数	100株
株主数	14,739名
格付情報	日本格付研究所 長期 A-
事業年度	10月1日より9月30日まで
定時株主総会	12月
株主総会議決権基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
期末配当(優待品)基準日	9月30日

大株主名	持株数 (千株)	持株 比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	3,229	5.47
株式会社松岡	2,551	4.32
第一生命保険株式会社	2,205	3.73
株式会社横浜銀行	2,176	3.69
農林中央金庫	1,473	2.49
株式会社八丁幸	1,411	2.39
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,405	2.38

※持株比率は自己株式(273,650株)を控除して計算しております
 ※2020年9月30日現在

株価推移





— 「人」「もの」「地球」に優しい食品流通のエキスパート —

MEMO

本資料に関する注意事項

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、
将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものと
ご理解ください。

当社の事前の承諾なしに、本資料に掲載されている内容の複製、転載等
を行うことを禁止します。

横浜冷凍(株)ホームページは
↓こちらをスキャン↓



お問い合わせ先

横浜冷凍株式会社 広報 I R 部

TEL: 045-210-0011

E-mail: info@yokorei.co.jp

URL : <https://www.yokorei.co.jp/>